

小児歯科における定期健診の  
評価についての考察

- 松尾敏信, 松本美恵, 山下敏子,  
長野千春, 川崎浩二\*  
マツオ歯科医院 (長崎市)  
\*長大・医歯病・地域医療連携センター

【目的】小児期から 15 年以上にわたる長期定期管理が 20 歳代のう蝕有病ならびに歯周疾患罹患状況に及ぼす効果を検証することを目的とした。

【調査対象および方法】2005 年から 2007 年にマツオ歯科医院に来院した 20 歳代の患者 160 名を対象とした。対象者を以下の 3 群に分類し、DMFT, BOP (全歯 6 点法) について比較検討を行った。

1) 6 歳未満から当医院で定期管理を受け、直近の 4 年間に管理の間隔が 2 年未満であった群 (管理群)。2) 6 歳未満から当医院で定期管理を受け、直近の 4 年間に管理の間隔が 2 年以上あった群 (管理ブランク群)。3) 2005 年から 2007 年の受診が初診であった群 (コントロール群)。

【結果および考察】DMFT は管理群 0.86、管理ブランク群 4.34、コントロール群 11.95 であり、有意差が認められた (Kruskal Wallis 検定)。BOP が 10%未満の者の割合は管理群 85.7%、管理ブランク群 62.3%、コントロール群 27.3%であった。BOP が 7%未満の者の割合はそれぞれ、76.2%、45.3%、13.6%であった。しかしながら、現在のところ BOP の評価基準がないため、今後管理を行う上で BOP のカットオフ値をどこにすべきかが今後の問題であろう。

今回の研究により、生涯を通じた口腔保健を確立するためには、その基礎期である小児期・思春期の継続的な管理が最も重要であり、生涯の口腔の健康度を決定すると考えられる。定期健診の環境整備がこれからの大きな課題であることが示唆された。

当院での米国海軍佐世保診療所歯科からの紹介患児診療システムおよびその実態について

- 品川 光春, 品川 知通子  
しながわ小児歯科医院 (佐世保市)

【目的】米国海軍佐世保診療所歯科 (以下、米軍歯科と略記) から、治療困難な小児について当院へ紹介される症例については、診療に至るまでの諸問題も存在している。

今回、現在までの当院における米軍歯科からの紹介患児診療システムと受診した患児の実態を明らかにするために実施した。

【資料および方法】2001 年 8 月から 2007 年 3 月までの 5 年 7 か月間に、当院へ紹介され来院した米軍家族の小児患児 16 名について診療システムと実態について調査検討した。

【結果】現在、米軍歯科から紹介された患児は初診時に保護者と通訳とともに来院し、治療計画の作成後その了解を得た上で、治療を開始する。治療代金は、患児側が日本円で窓口にて支払い、後日、領収書をもとに、患児側が直接保険会社へ代金を請求している。

受診患児の初診時平均年齢は 4 歳 2 か月で男児 5 名、女児 11 名の計 16 名で、主訴はすべて齲蝕治療で、一人平均齲蝕歯数は 7.6 本であった。16 名中、治療中断が 1 名、初診のみ 1 名、他の 14 名は治療完了まで受診した。

【考察および結論】2000 年に米国海軍家族の歯科治療を米国で加入の医療保険を使用しての治療を開業医でしてほしいという依頼があり、一般歯科、矯正歯科、そして小児歯科の当院の 3 診療所で開始した。

当初の診療システムを試行錯誤の結果、現在、当院での米軍家族の小児の歯科治療の実態について、ようやく円滑に動きはじめたので、今後はこのシステムのさらなる改善と定着、普及を一般歯科、矯正歯科とも連携協力して図っていきたいと考えている。